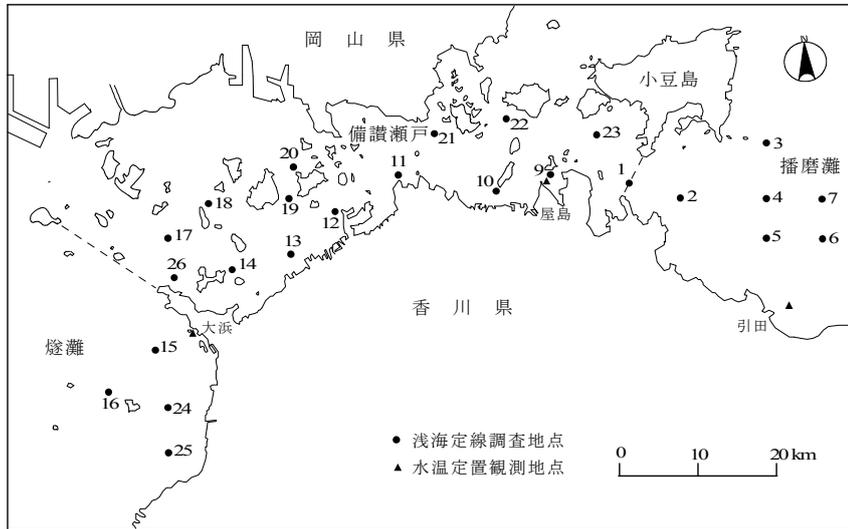


香川県漁海況速報 平成22年7月 (H22-4号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成22年7月1日（備讃瀬戸，燧灘），2日（播磨灘）

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温及び塩分は「かなり低めからやや高め」、透明度は「平年並み」、溶存酸素は「平年並みからかなり高め」であった。

7月

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度 (m)	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層		表層	底層
播磨灘	7地点平均値	23.2	20.9	18.9	30.6	31.2	31.7	6.9	5.16	4.46
	平年値	22.1	20.6	18.8	31.6	31.8	32.1	7.7	5.26	3.73
	平年偏差	1.1	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.58	0.58
	標準偏差(σ)	1.1	0.7	0.6	0.5	0.4	0.4	2.0	0.40	0.40
	状況	やや高め	平年並み	平年並み	かなり低め	かなり低め	やや低め	平年並み	平年並み	かなり高め
備讃瀬戸	14地点平均値	21.6	21.1	20.9	31.3	31.4	31.5	4.4	4.67	4.52
	平年値	21.3	20.8	20.6	31.5	31.8	31.9	4.2	4.71	4.46
	平年偏差	0.3	0.3	0.3	-0.2	-0.4	-0.4	0.2	-0.04	0.06
	標準偏差(σ)	0.8	0.7	0.7	0.9	0.6	0.6	0.8	0.25	0.26
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	やや低め	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み
燧灘	4地点平均値	24.7	20.6	18.4	31.4	32.2	32.6	8.5	5.25	4.63
	平年値	23.9	20.2	18.2	31.4	32.4	32.7	9.1	5.28	3.73
	平年偏差	0.8	0.4	0.2	0.0	-0.2	-0.1	-0.6	-0.03	0.90
	標準偏差(σ)	1.4	0.7	0.7	1.0	0.5	0.6	3.3	0.42	0.47
	状況	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	かなり高め

平年偏差＝平均値－平年値

平年値の算出期間

水温，塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は，毎月1日の値に補正。

平年並み $0\sigma \leq \text{平年偏差} < 0.6\sigma$ (σ ：標準偏差)

やや高め（やや低め） $0.6\sigma \leq \text{平年偏差} < 1.3\sigma$

かなり高め（かなり低め） $1.3\sigma \leq \text{平年偏差} < 2.0\sigma$

著しく高め（著しく低め） $2.0\sigma \leq \text{平年偏差}$

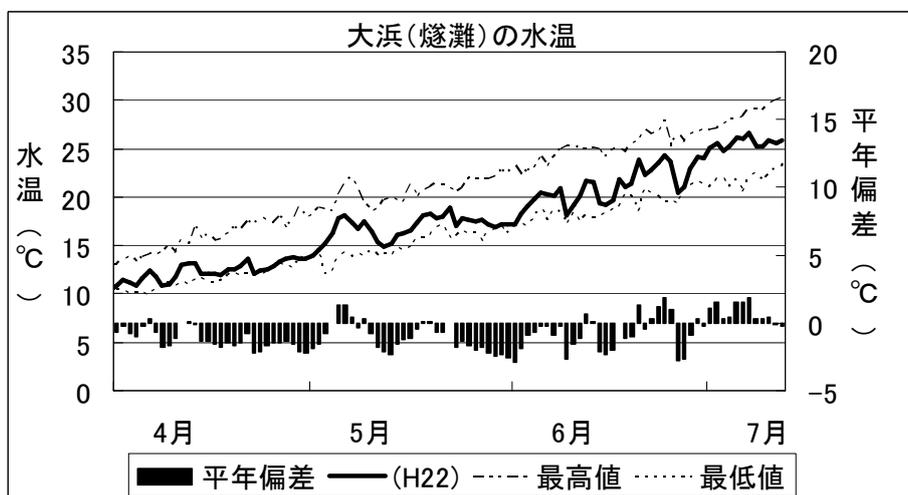
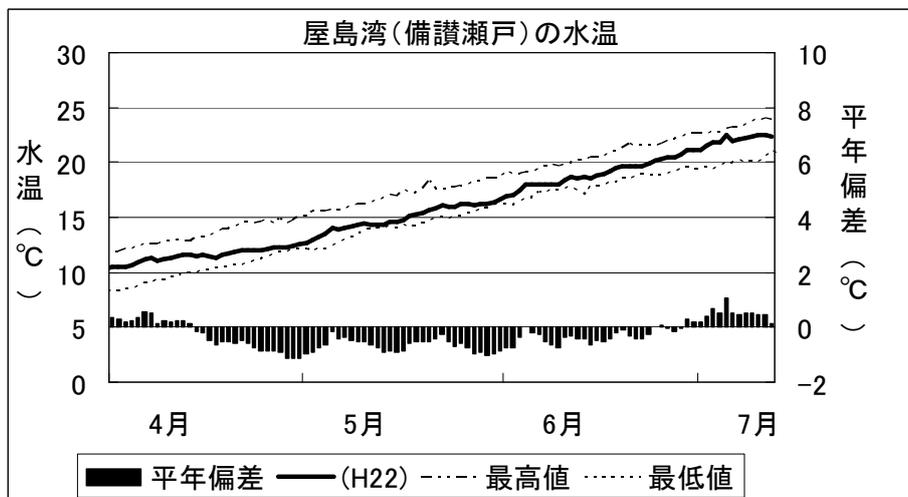
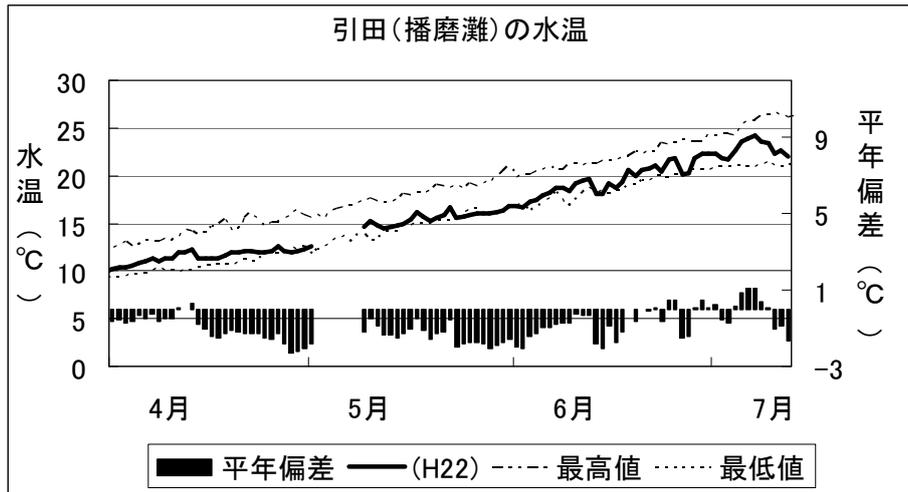
3) 定置観測 (水温)

播磨灘 (引田) : 4月は平年並みから著しく低め、5月はかなり低めから著しく低めで推移し、6月は著しく低めから平年並み、7月は平年並みからかなり低めで推移している。(4月末に3日、5月下旬に5日、6月に5日、過去最低値を更新。)

備讃瀬戸 (屋島) : 4月は平年並みからかなり低め、5月は概ねやや低め、6月はやや低めから平年並み、7月は概ね平年並みで推移している。

燧灘 (大浜) : 4月はやや低めからかなり低め、5月はかなり低めから平年並み、6月はかなり低めから平年並み、7月はやや高めから平年並みで推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜 : 平成元 (1989) ~平成 21 (2009) 年
屋島 : 昭和 50 (1975) ~平成 21 (2009) 年



4) 赤潮 (6月22日～7月23日)

播磨灘：西部海域において6月28日から7月1日に *Heterosigma akasiwo* による赤潮が、7月1日に *Prorocentrum triestinum* による赤潮が、7月22日から23日に *Mesodinium rubrum* による赤潮が確認された。

備讃瀬戸：発生なし。

燧灘：発生なし。

5) 卵稚仔

調査日：平成22年7月1日(備讃瀬戸、燧灘)、2日(播磨灘)

出現量

		カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
		卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘	平均値	26.1	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	1.0
	平年値	40.4	5.4	0.0	0.0				
	対平年(%)	65	23	-	-				
備讃瀬戸	平均値	2.8	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.1	1.0
	平年値	2.7	0.6	0.0	0.0				
	対平年(%)	103	132	-	-				
燧灘	平均値	54.3	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	7.3	3.3
	平年値	15.5	3.1	0.0	0.0				
	対平年(%)	349	68	-	-				
総平均	平均値	21.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	12.2	1.5
	平年値	22.8	4.7	0.0	0.0				
	対平年(%)	92	26	-	-				

－：平年値が0の場合を示す。(その他の魚類については平年値がない。)

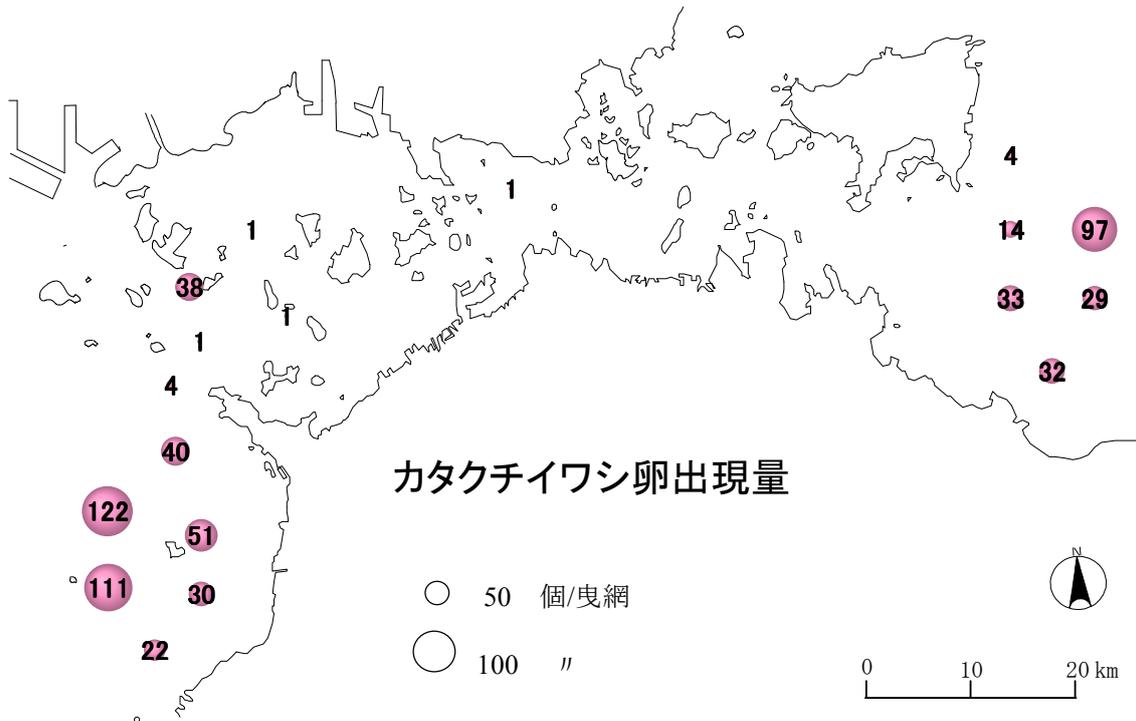
平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55年(1980)～平成21年(2009)年度

マイワシ：平成5年(1993)～平成21年(2009)年度

イカナゴ：平成7年(1993)～平成21年(2009)年度

各調査点でのカタクチイワシ卵の出現状況は、次のとおりである。



2. 漁況

5月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網では主にマダイ、スズキ、コノシロ、キュウセン、ニベ（コイチ）、シロギス、メイタガレイ、ネズッポ類、ウシノシタ類、アナゴ、オニオコゼ、小エビ類、マダコ、コウイカ、マツイカ（小型のスルメイカ）、アカニシが漁獲されている。また、スズキ、キュウセン、オニオコゼ、小エビ類、マダコは好調、メイタガレイ、ウシノシタ類は低調、その他の魚種は前年並みである。</p> <p>さわら流し刺し網による7月22日現在の漁獲量（対前年同期比）は、サワラが117%、サゴシが18%である。</p> <p>東讃のしらす船びき網の6月の漁獲量は、約109トン（前年同期比約18%）と低調である。</p> <p>建網では主にスズキ、カサゴが漁獲されているが低調である。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にマダイ、メイタガレイ、フグ類、マアナゴ、マダコ、テナガダコ、小エビ類、アカニシが漁獲されている。</p> <p>さわら流し刺し網による7月22日現在の漁獲量（対前年同期比）は、サワラが539%と好調、サゴシが136%である。</p> <p>建網では主にマダイ、クロダイ、キュウセン、メバルが漁獲されている。</p> <p>柵網では主にクロダイ、ボラが漁獲されている。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主にメイタガレイ、カマス類、コチ類、オニオコゼ、マダコ、ジンドウイカ類、小エビ類が漁獲されている。</p> <p>さわら流し刺し網による7月22日現在の漁獲量（対前年同期比）は、サワラが143%、サゴシが42%である。</p> <p>柵網では主にマアジ、スズキ、アカカマス、ボラ、イカ類が漁獲されている。</p> <p>建網では主にキジハタ、メバル、カサゴが漁獲されている。</p> <p>いわし機船船びき網における7月中旬までの共販量は、537.1t（対前年同期比44%、対平年同期比104%）で、好漁だった昨年を大きく下回るものの平年並みの漁獲量である。</p>